



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

生きる力が育つとき

5年生の家庭科でお茶を入れる実習に寄せてもらった。大人からするとお茶を入れて飲むだけのことなのだが、子どもにとってみれば、相当ドキドキすることのようで、見ていて実に楽しくなってくる。

この実習のねらいは、お茶を入れる手順とそこでの留意事項を学ぶということだけではない。身近な生活に生かすということも含んでいる。

たまたま家庭科室の窓から、校庭の世話を毎日してくださっている奥村さんの姿が目にとまった。子どもたちに、奥村さんにもいただいてももらったかどうかと投げかけると、「ぜひ飲んでもらおう」「ここに来てもらおう」ということになった。ならば、ということで、「お仕事をしておられる奥村さんに、家庭科室の窓からどのような呼びかけをするといいだろう」と班ごとに相談させ、全体で発表し合い、みんなで決めることにした。やがて、検討した声のかけ方を発表することになった。「お茶を入れたので飲んでください。」「いつもお仕事をしてくださっているのでお茶を飲んでください。」などと、こちらの言い分を唐突に呼びかけるというものが続いたのだが、結局、仕事をしている人に声をかけるのだからということで「お仕事中、すみません。今、家庭科でお茶を入れる勉強をされていて、お茶ができたので、飲んでいただけますか。」というのになろうということになった。

こうして奥村さんを迎え入れ、お茶をいただいてももらうことができた。飲み終わるまでじっとみつめる子どもたちに、奥村さんから、「とってもおいしかった、こんなおいしいお茶は生まれて初めてです。」ということばが返されると、やったあという顔やほっとしたような顔になっていた。

5年生の家庭科は、3学期に「団らん」を題材に学習する予定である。これまでは、どちらかといえばお茶を入れてもらう立場だったのが、これからはお茶を入れ、もてなす立場になることが多くなっていく。家庭科の学習は、これを後押しするような学びの道筋だ。

いわゆる「生きる力」はこんなふうにして育てられていくのだろう。